

## 第2回 わかりやすい洪水・濁水の表現検討会 議事要旨(案)

日 時；平成15年9月30日(火)10:00～12:00

場 所；国土交通省会議室(中央合同庁舎三号館11階 特別会議室)

( ；各委員、 ；河川局)

洪水という言葉は広義に使われている。浸水でも浸水深のように静的なものから、氾濫による浸水などは動いているときに使っている。この辺を一度整理してどのような表現が適切かを検討すべき。

受けての人からみると、無理やり「洪水」と言う必要はなく、「浸水」の方が分かりやすければ、そのような表現がよいと考える。

受けての行動なりに結びつくためには、情報の質に加えて、受けて側の場の広がりや単位をどの程度にするかが情報内容の精粗にも関連すると思われる。

緊急時は避難勧告や避難指示などの現実の話ができる単位となると考えている。平常時は、方針は決まっていないが1km四方とか、500m四方ぐらいで、その地域がAランクなのか、Bランクなのか等を日頃から地元の人に見せておくことなどが必要ではないかと考えている。

地下浸水の対策で止水板の設置とあるが、過去の水害で止水板や土嚢のために外に出られなくなった例があると聞いたことがあるので、土嚢を積む際の注意事項を明記するとよい。

資料の図面には、川の位置や流れを入れるなど分かりやすくすべき。

図面等は、一般に提供する際には誤解のないように工夫をしていく。

緊急時に最大浸水深と時間の見通しはどこまで分かるのか。

「要避難浸水」は「避難が必要な浸水」と表現する方がよい。また、「濁水が見込まれます」は、「濁水になるおそれがあります」と表現した方がよい。

最大浸水深と時間の見通しは、住民から見て求められている情報を書いている。情報提供をしていく努力はしなければならないが、どれぐらいの精度でどこまで出せるかどうかは検討課題である。また、全般的に言葉の吟味はこれからであり、本検討会のなかでご意見を伺っていきたい。

表現案は、大和言葉で作ってほしい。今年の夏の水害や土砂災害を見ていると、自治体に向けてどのように情報を伝え、危険情報を共有していくかが重要な課題である。

問題意識は同じである。まずは、情報の形を議論した上で、伝え方等は検討フローに基づき順次検討していきたい。

洪水は、内水とか外水に分けて考えるのか。

一般の方には分かりにくいので、内水や外水には分けて考えないこととしたい。ただ、雨が降って水が増えてくる程度想定できるものと、予測が難しい大河川の破堤のようなものは対比して書いている。

大河川の破堤について、実現象を確認できれば予測ができるのか。

漏水のような実現象があれば、予測できる場合もある。

予測できないような梅雨末期の集中豪雨と都市型の短期集中豪雨のようなものをどう扱うか。

標準型で整理した上で、不足であれば別な表現なりを加えていくなどしたい。

## 【湯 水】

湯水調整会議の仕組みや判断プロセスなどが住民にはよく分からないのではないかと。

これまでも決して不透明ではなかったと思う。湯水調整に関しては、別途水マネジメント懇談会で、水資源対策の手当てをちきんとしているところに、湯水時に優先して水を供給できるようにしくみを設けるよう提言をいただいている。

湯水については、普段の川の水が必要量確保された上で議論をしないと、住民に湯水を理解させるのは難しいのではないかと。

住民が五感で感じとれる環境を整備することで、行政から情報を得なくても住民独自で危機を感じ取れることもあるのではないかと。

そのとおりである。

住民の行動とそれをやることで効果がどのようにあるのかを書き加える必要がある。また、湯水については水利権の問題を解決せずに、結果的に住民に負担を強いるには無理があり、長期的な課題として検討する必要がある。

水マネジメント懇談会でもその問題意識でいくつか提言を頂いており、検討していきたい。

表現のイメージとして「単なる区分・抽象的な表現」、「意味を持つ簡潔な表現」、「解説的に情報提供」の3種類あるが、本検討会でどれかに決めていくのか。

これらを含めて検討をお願いしたい。

放送等でよく使い分けているように口で伝える場合、字幕スーパーで伝える場合など、その伝達方法に応じてどのような文章が望ましいかを精査する必要がある。

伝達方法に応じて専門家にもご意見を伺いながら検討していきたい。

湧水では、利水安全度10分の1は分かりにくい。

湧水については、程度の問題と頻度の話はどう表現するかが難しく、ご意見を伺ってきたい。

#### 【全体】

P14で、現在の洪水予報文を「表現のイメージ」に変えていくということか。

ここでは、「地域」とセットで「浸水深の大、中、小」を表現する組み合わせを提案しており、この部分がうまく整理できれば現在の洪水予報文も工夫してもよいと考える。

見出し文で、「地域」では「大規模な浸水」の発生の可能性があると言った後に、具体的に詳しく説明をしてもらい、最後に住民の行動を促す情報としないと完結しないのではないかと。

住民に対し即座に正確に伝えていく情報と、自治体に伝えていく情報とは、その表現方法は別物である。どこで、誰が使う情報であることを明確にして、まとめていきたい。

発信側と受信側のギャップをいかに小さくするかが大切であり、それに対してどのような表現を考えていくかが課題である。

次回検討会では、どういう場面で、どういう言葉を、どのように使うかをお示ししたい。

以上